



令和3年10月号 Vol.47
情報メディア教育センター



毎年、秋に発表のあるイグノーベル賞。この賞は「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる業績」などに送られるそうです。今回日本人が受賞した動力学賞では、「数人が「歩きスマホ」を行うことで周りの歩行者の通行にも影響を及ぼすことを明らかにした」という研究。スマホをいじりながら歩いていると、注意を逸らされた歩行者とその周りの歩行者も衝突回避が難しくなることが発見されたそうです。気をつけないとですね。さて、図書館にも『笑う科学イグ・ノーベル賞』という本があります。興味ある方は読んでみて下さい。

読書週間と旅な気分になれる本



文化の日を中心とした2週間の10月27日～11月9日は読書週間です。今回は75回目！！毎年テーマに沿ってポスターと標語が公募されます。今年は、「最後の頁を閉じた 違う私があった」だそうです。せっかくですので、皆さんも読書週間にのっかって何か読んでみませんか？

こちらでは、「旅な気分になれる本！」として旅行記や旅する小説などをご紹介します。コロナ禍で国内でさえ行動が難しい昨今、本を通して違う景色や異文化をのぞき見てみませんか。

私は、旅が好きだったので訪れた場所などをいくつか思い出しながら紹介したいと思います。少し長い旅を初めてしたのは北海道でした。友達とだけで行く船や飛行機、レンタカー、ユースホテルなど、初めて尽くしでした。不慣れながらも1週間ぐら行ったと思います。異常に楽しかったです。どこまでもまっすぐ伸びた道、さわやかな青い空、ひんやりとした空気、いろいろ感動した中でも、一番は食事です。売店などのじゃがバターだけでも毎日食べたいぐらい美味しいのに、ラーメン、メロン、海鮮丼、シンキスカン、チーズフォンデュ、ソフトクリーム、お寿司…。感動の連続だったのを今でも思い出します。そんな食いしん坊な旅には、こんな本が。↓

その他アジアには、中国に5年住み、タイ、ベトナム、香港、台湾に旅しました。アジアはなん



『世界をたべよう!旅ごはん』 杉浦さやか/著
著者が旅した世界各国の料理が文と絵で紹介されています。

と言っても刺激的。似ているような気もしますが、驚くことがとても多かったように思います。学生時代に行ったタイでは、日本語で「もうかりまっか？しゃしょーさん、ポチポチでんな」と売店で話しかけられたり、博物館で入館料2重で取られそうになったり、日本語喋れるガイドさんが「ワタシ、長野オリンピックの建物作る仕事したよ。でもキョーサーソーカンだったね。」とケラケラ笑いながら教えてくれました。でもココナツカレーは今のところ人生で一番美味しいカレーでしたし、初めての焼きバナナやココナツの実から飲むジュースもが意外に美味しかったなあ。刺激的な旅といえば、こんな本がありますね。→

またドイツに3年半いたので、欧州も旅しました。一番の感動は美しい街並み。また国々は隣接しているのに、一步入れば街並みも食べ物も違い、文化が守られているのが素晴らしいなと思いました。高速道路は繋がっているのに、違う国に入ると突然、走行



『深夜特急1-6』 沢木耕太郎/著
インドのデリー～イギリスのロンドンを旅する紀行文。バックバッカーのバイブルと言われ、この本を読んで旅や海外に行く人も多かったとか。香港などアジアから向かい、異文化を肌で感じながらユーラシア大陸を進む旅をリアルに感じられる一冊。

マナーが変わったりするのも興味深かったです。旅がし易い日常に戻ると良いですね♪。



『旅の絵本』 安野 光雅/著
国々で違う町並みや建物、人々が繊細に描かれています。



『かもめ食堂』 群 ようこ/著
フィンランドの首都ヘルシンキに舞台上、主人公の日本人が交流しながらお店をする物語。映画も小説も北欧感が伝わってきます。



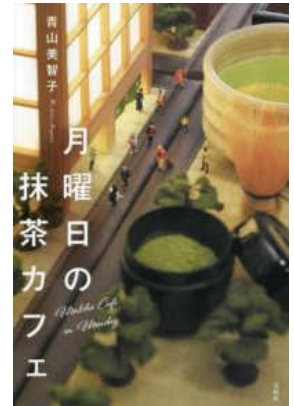
新着図書ピックアップ



『月曜日の抹茶カフェ』

青山 美智子【著】

本屋大賞で2位の『お探し物は図書室まで』青山美智子さんの最新刊です。12話の短編集。定休日に開かれたお抹茶カフェの話から始まり、少しずつ繋がっているお話です。「こんなことないでしょ」な出会いではなく、あるかもなと思わせてくれるような身近でほんわかした会話が繰り返り広げられていく、温かいお話ばかりでした。和菓子食べたいなあ、学生時代の友達関係。。。あったとか、友人と温泉なんて何年行ってないだろうとか、ゆる〜く思いを巡らせられる読書時間でした。(大原)



『子ども介護者 ヤングケアラーの現実と社会の壁 (角川新書)』

濱島 淑恵【著】



ヤングケアラーという言葉、よく聞くようになりました。家族のケア(家事、介護、年下のきょうだいの世話、感情的サポートなど)を担う子ども、若者たちのことですが、法律上で定められた正式な定義はまだないそう。今年度に入り厚生労働省と文部科学省が初めての実態調査を行ったというニュースが記憶に新しいです。

著者は2010年代半ばからヤングケアラーについての調査と研究を行ってきた人物。本書はその調査内容も含め、見えてきた日本のヤングケアラーの姿とその語りを通してわかること、支援に向けてできることなどが書かれています。238ページの新書なので読みやすく、より理解を深めたい人には巻末の参考文献も参考になります。ヤングケアラーを題材にした小説『with you』(濱野 京子著)もあわせて読んでみては。(津田)

『透明な螺旋』

東野 圭吾【著】

ガリレオシリーズ最新作です。皆さんの中にも湯川学のファンは多いのではないのでしょうか。湯川先生、いつの間にか教授になっていたんですねー。

東野圭吾の作品は単なるミステリーではなく、何か心に沈むものがあるといつも思います。今回はガリレオらしい鮮やかな謎解きも物理的なトリックもありますが、家族や親子といった人間の深い部分がテーマになっていて、今まであまり明かされなかった湯川の過去と秘密にハッとさせられます。タイトル『透明な螺旋』とは何か?切ないストーリー、一気に読み。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで!」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



『52 ヘルツのクジラたち』

町田そのこ【著】

10月の開館予定

52 ヘルツのクジラは、他のクジラには聞き取れない 52 ヘルツの周波数で鳴くクジラ。そのため仲間と会話することができず大海原にたった1頭で回遊し続ける「世界でもっとも孤独なクジラ」といわれています。

人間は、せっかく言葉を操ることができるのになぜか、悩み、苦しみ、辛さをどうしても1人で抱え込んでしまう生き物だと思います。本書では、そんな人間の心の悲鳴を52 ヘルツのクジラの声にたとえられ物語が描かれています。

幼少期に虐待、その後、義父の介護を強いられ奴隷的な扱いを受け20代半ばまで自由と縁遠い生活を送っていた女性がこの物語の主人公。そんな絶望の淵の彼女を救ったのは、彼女の友人の同僚男性…。なぜ、赤の他人がそこまでして彼女を救ったのか。そこには大きなワケが…。(もしかして一目惚れ!?)

そんな彼女は、人生第二章の場として、祖母が生前住んでいた大分県の田舎に移住します。しかし、そこで出会ったのは痣まみれの少年。しかも、虐待が原因で言葉が話せません。少年を救うため彼女は動きます。彼女の原動力は、過去の経験に基づく使命感?それとも…少年の52 ヘルツの声が聞こえたから?果たしてその少年はどうなるのか。そして、彼女を救った友人の同僚男性との関係はどうなったのか…。

フィクションとはいえ、序盤あまりにも心が痛む内容が描かれ、胸がしめつけられるような思いになりますが、最終的には心の痛みが感動に変わるさすが2021年本屋大賞作品!

研究が追いついていないだけで、クジラの世界も52 ヘルツの声を操るクジラは1頭とは限りません。52 ヘルツの声が聞けるクジラも存在するかもしれません。何が言いたいかというと、みなさんも悩み、苦しみ、辛さを1人で抱え込んでいませんか?あなたの52 ヘルツの声を聞ける人、世の中にたくさんいます!

さあ!読書の秋!みんな本読もうぜ!!

『52 ヘルツのクジラたち』 町田そのこ(著)
2021年本屋大賞作品



10月	
1 金	8:10-17:50
2 土	休館
3 日	休館
4 月	8:10-17:50
5 火	8:10-17:50
6 水	8:10-17:50
7 木	8:10-17:50
8 金	8:10-17:50
9 土	休館
10 日	休館
11 月	8:10-17:50
12 火	8:10-18:50
13 水	8:10-18:50
14 木	8:10-18:50
15 金	8:10-18:50
16 土	休館
17 日	休館
18 月	8:10-18:50
19 火	8:10-18:50
20 水	8:10-18:50
21 木	8:10-18:50
22 金	8:10-18:50
23 土	休館
24 日	休館
25 月	8:10-18:50
26 火	8:10-18:50
27 水	8:10-18:50
28 木	8:10-18:50
29 金	8:10-18:50
30 土	休館
31 日	休館

※中間考査の日程変更に伴い、開館時間が変わっています。ご注意ください。





第41回 亀井 俊彦先生おすすめ
『道をひらく』 松下 幸之助【著】

『道をひらく』は、松下幸之助氏自身の体験と人生に対する深い洞察をもとに綴った短編随想集です。自信を失ったときや困難にぶつかったとき、また道を切り開くためにどのような心持が必要であるかを教えてくれます。仕事等で行き詰まった際も「仕事を向上させるために」「事業を伸ばすために」「自から決断を下すときに」の項が、解決の方途を示してくれます。様々な年代、職種の人に役立つ、永遠の座右の書です。



※お薦め本はリレー連載です。次のボタンはどなたに渡るかな?



先月号でお知らせしましたが、2F メイン展示は「シーズン到来 いざ就活！さあ受験！」と題して、推薦入試、小論文、面接、SPI 試験などの対策本をみんなまとめて展示中です。でもね、EMC にはじつは他にも毎月変わる特集コーナーがいくつもあるんです。今回はそんな、知る人ぞ知るミニ特集コーナーに光を！！







 どこにあるの
 書架のあいだにあるよ





 **こんな本 R**
 **2F**
三重県の学校図書館で働く司書が選ぶテーマ別おすすめ小説。今月は「勉強も！イベントも！どちらも大切です。」がテーマです。合唱コンクール、文化祭などの学校行事と、数学などの教科を題材にした小説を並べました。

 **SDGs**
 **2F**
2015年9月国連で採択された持続可能な開発目標 SDGs (エス・ディー・シーズ)。基本を知る本とともに、今月のピックアップテーマ「貧困」に関する本を展示しています。

 **大学ってどんなとこ**
 **2F**
学部選びの参考になる「なるには BOOKS 大学学部調べシリーズをはじめ、学生生活はどんな風？大学の授業って高校とは違うの？まで、大学進学を意識したらまずは覗いてみてほしいコーナーです。

 **はじめましての海外文学**
 **3F**
なじみが薄い(?)海外文学を月替わりテーマで紹介します。今月は、シャーロック・ホームズやポワロなどおなじみの名探偵が活躍する推理小説の特集。『憂国のモリアーティ』はじめ、コミックや小説の元ネタとして登場することの多い名探偵たちですが、オリジナルに挑戦してみたいかがでしょうか。

 **EMC みんなの愛読書**
 **3F**
1. 若い人に贈る読書のすすめ
10月27日から第75回読書週間が始まります。この1年に出版された本の中から読書推進運動協議会が選んだ「若い人にぜひ読んでもらいたい本」を紹介します。
2. おすすめのシリーズ
『本好きの下剋上』(香月美夜著) や八咫烏シリーズ(阿部智里著) など、人気のシリーズを集めました。



みつけてみるよ

編集後記 テレビシリーズ途中挫折組ですが『シン・エヴァンゲリオン論』(藤田直哉著、河出新書)を読みました。映画見たくなったぞ。それにしても新書っていいですね。細切れ時間でも読みやすいページ数。ごろごろしながらでも手になじむサイズ感。毎月1冊読もうかな。(津田)

